

---

## BILZ – ツールメモリーエディター (TME) 取扱説明書

### 目次

1	プログラムの目的 .....	2
2	プログラムの起動 .....	2
3	ツールストレージファイルの新規作成 .....	4
3.1	基本設定 .....	4
3.1.1	装置のシリーズを選択 .....	4
3.1.2	装置の型を選択 .....	4
3.1.3	コイルのタイプを選択 .....	4
3.2	ツールデータの編集 .....	5
3.3	ツールデータの追加 .....	6
3.4	ツールデータの削除 .....	6
3.5	ツールデータの順序変更 .....	7
3.5.1	ツールデータの選択 .....	7
3.5.2	位置の変更 .....	7
3.6	ツールストレージファイルの保存 .....	9
4	ストレージファイルを開く .....	10
5	焼きバメ装置へツールストレージファイルを転送する .....	10
5.1	基本 .....	10
5.2	手順 .....	10

エラー! [ホーム] タブを使用して、ここに表示する文字列に Ü **BILZ** を適用してください。

---

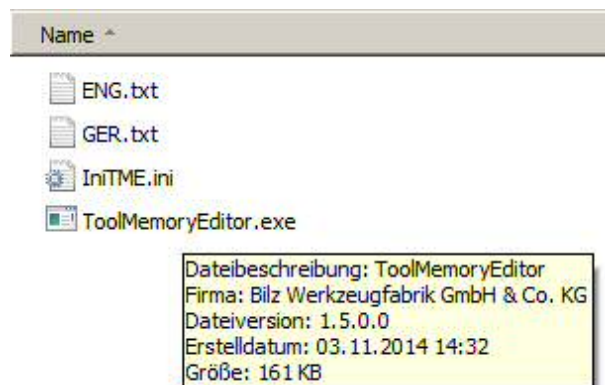
## 1 プログラムの目的

ツールメモリエディターは、焼きバメ装置 ISG2410、ISG3410 用のツールストレージファイルを作成、展開、変更するために使用されます。

## 2 プログラムの起動

プログラムを起動する最も簡単な方法は、エクスプローラーからです。

次のファイルは、インストールディレクトリに格納されています。:



### ENG.txt

プログラム内のテキストの言語ファイル。

言語毎に適切なファイルを作成する必要があります。(例 : GER.txt, ENG.txt, FRA.txt, ...).

### IniTME.ini

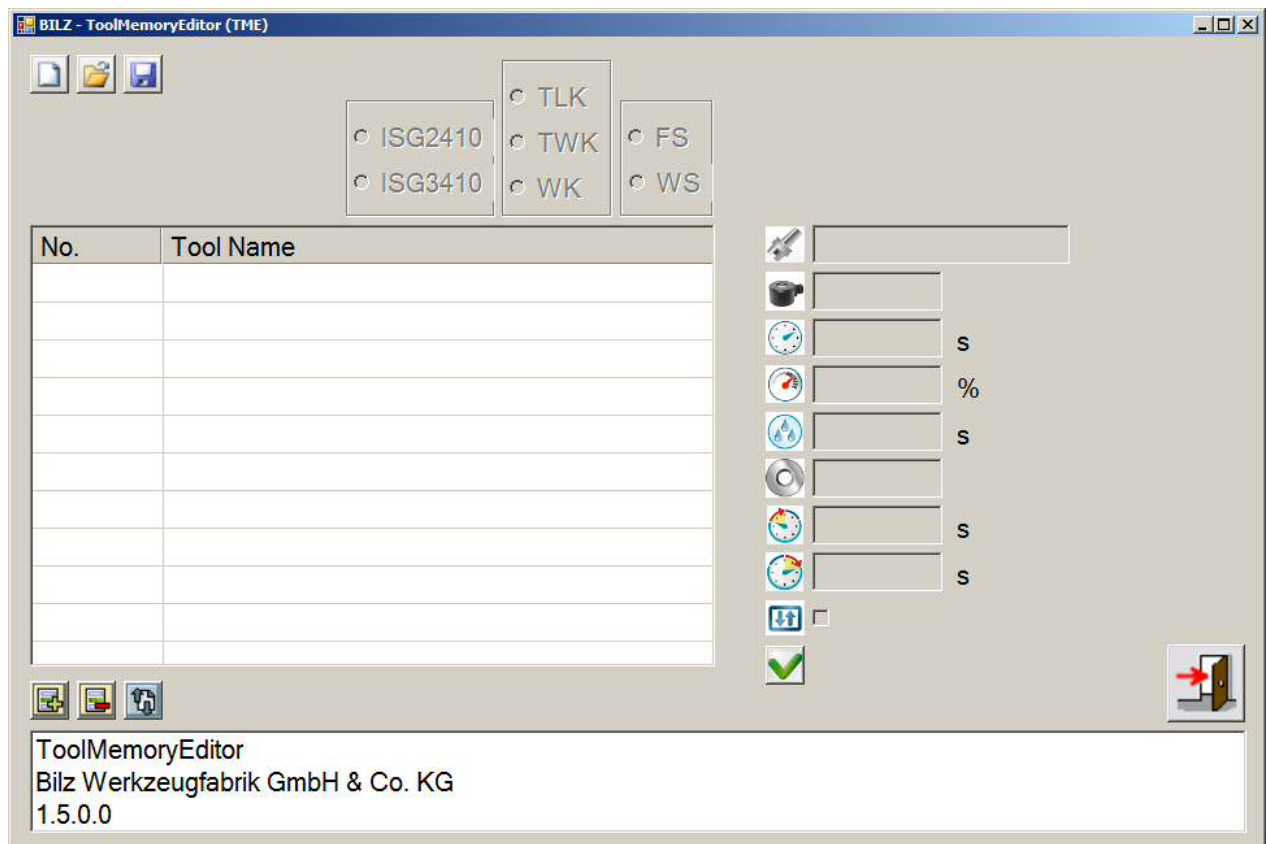
ツールメモリエディターの初期設定。このファイルで使用したい言語を設定します。

### ToolMemoryEditor.exe

実行プログラム; マウスポインタがこの上に配置されたときに、関連するファイル情報が表示されます。(上の画像を参照)




エラー! [ホーム] タブを使用して、ここに表示する文字列に ÜBILZ  
を適用してください。

"ToolMemoryEditor.exe"をダブルクリックし、プログラムを開始




エクスプローラーで確認できる情報は、テキストボックスに表示されます。

プログラムの起動後、3つのボタンがアクティブになります:

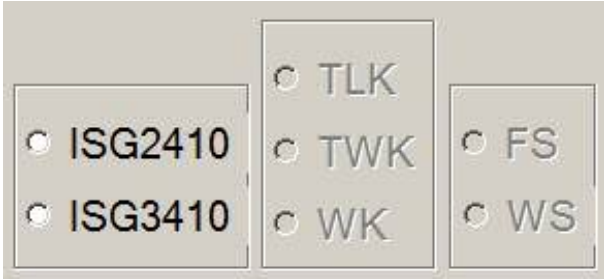
	ツールストレージファイルの新規作成
	保存したツールストレージファイルを開く
	プログラムの終了

### 3 ツールストレージファイルの新規作成

 ボタンをクリックすると、ツールストレージファイルを新しく作成する準備が出来ます。

#### 3.1 基本設定

##### 3.1.1 装置のシリーズを選択

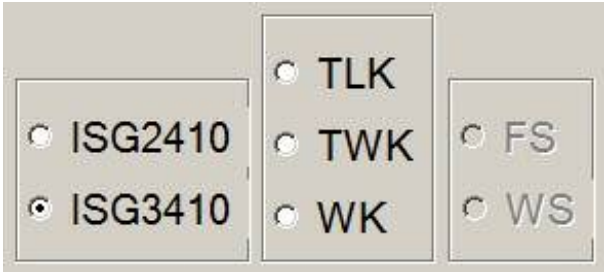


最初に、装置のシリーズを選択します

ISG2410 装置の加熱出力 8 kW

ISG3410 装置の加熱出力 11 kW

##### 3.1.2 装置の型を選択




装置の型を選択します

TLK 卓上型、空冷

TWK 卓上型、水冷

WK 接地型、水冷

##### 3.1.3 コイルのタイプを選択



コイルのタイプを選択します

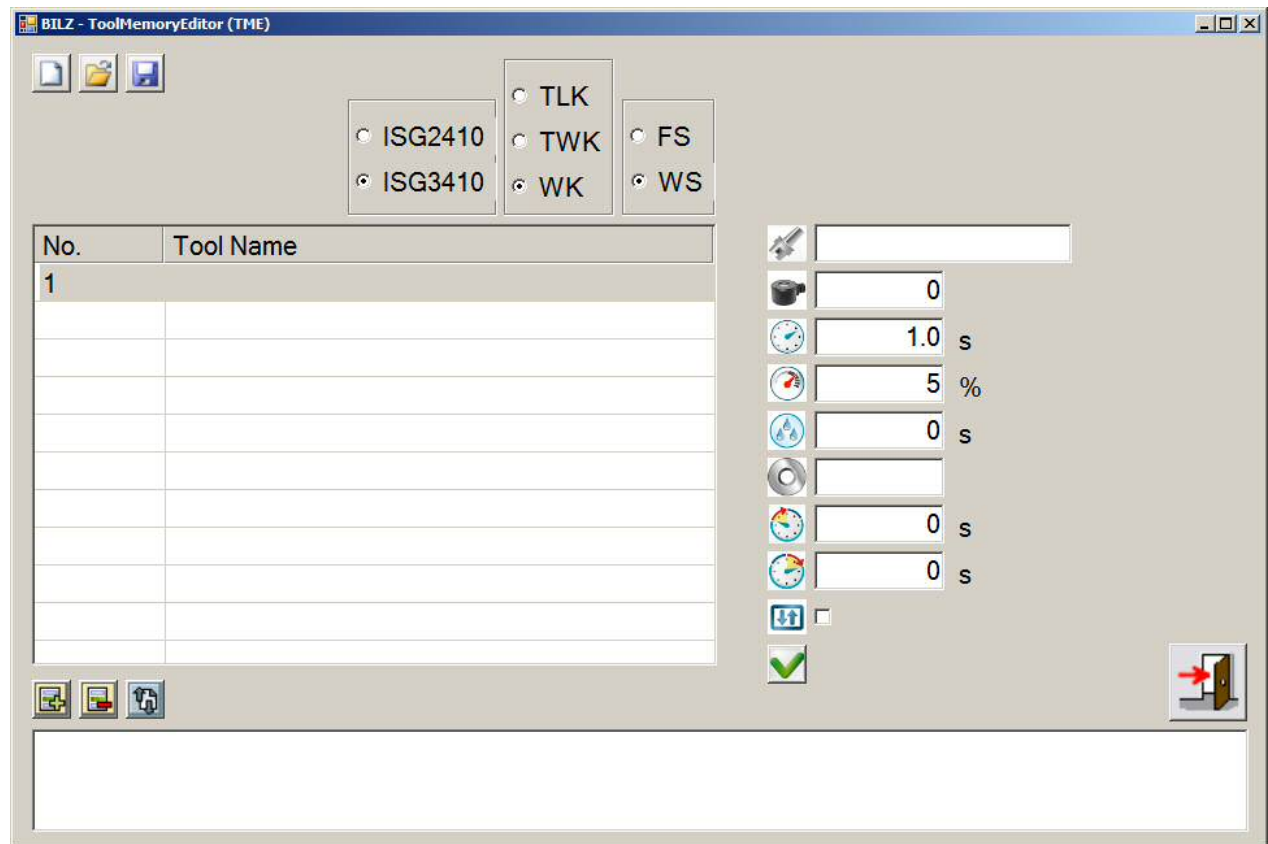
FS コイル固定タイプ

WS コイル交換タイプ

以上を設定後、ツールデータを編集することが可能になります。




エラー! [ホーム] タブを使用して、ここに表示する文字列に ÜBILZ を適用してください。

### 3.2 ツールデータの編集




以下の項目を、ツールデータに設定することができます。:

	ツールデータ名 (最大 10 文字)
	コイル番号 (0 ~ 48) コイル固定タイプの場合、コイル番号は 49 で固定となり、編集することは出来ません。
	加熱時間 ISG2410: 1 ~ 100 秒 (1 秒単位) ISG3410: 1.0 ~ 60.0 秒
	加熱出力 ISG2410: 50 ~ 100 % ISG3410: 5 ~ 120 %
	冷却時間 TLK: 調整できません TWK、WK: 10~100 秒
	チェンジディスク名 (最大 8 文字)

	加熱開始までの停止時間 (0 ~ 30 秒). この機能は、WK 型の装置のみ調整可能です。
	加熱後の停止時間 (0 ~ 30 秒). この機能は、WK 型の装置のみ調整可能です。
	インバーサシュリンキング この機能は、WK 型の装置のみ利用可能です。


データを入力後、情報を設定するには  ボタンを押します。

### 3.3 ツールデータの追加

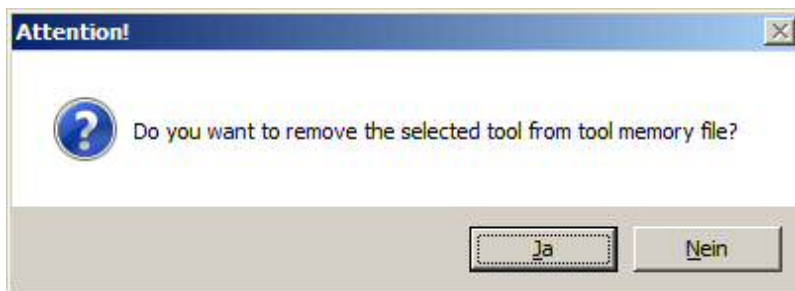
 ボタンで、ツールストレージにツールデータを追加することが出来ます。ツールデータは、ツールデータリストに追加されます。

### 3.4 ツールデータの削除

ツールデータリストから、削除するツールデータを選択します。

 ボタンを押すと、選択したツールデータを削除することが出来ます。

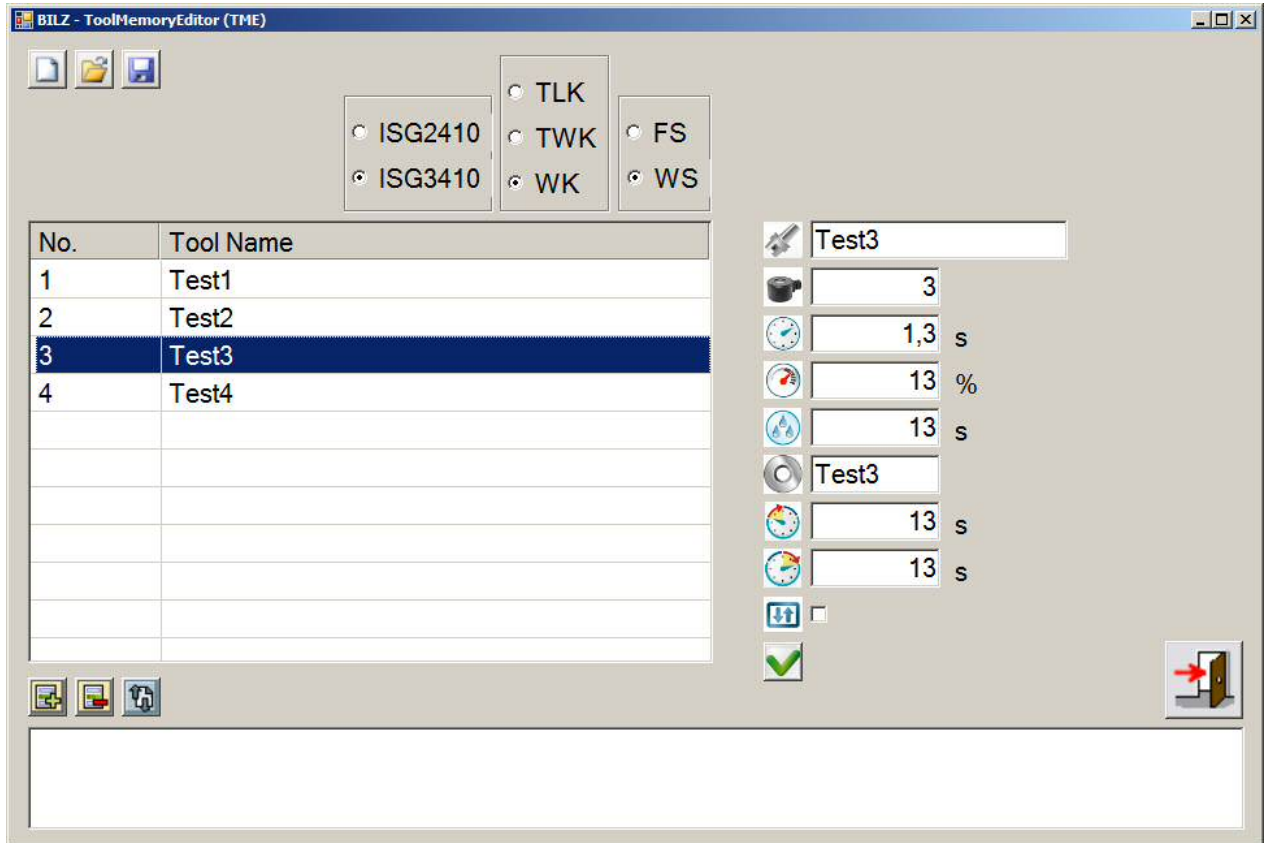
削除する前に、警告が表示されます。



### 3.5 ツールデータの順序変更


ツールストレージに、複数のツールデータがある場合、必要に応じて位置を変更することができます。

#### 3.5.1 ツールデータの選択

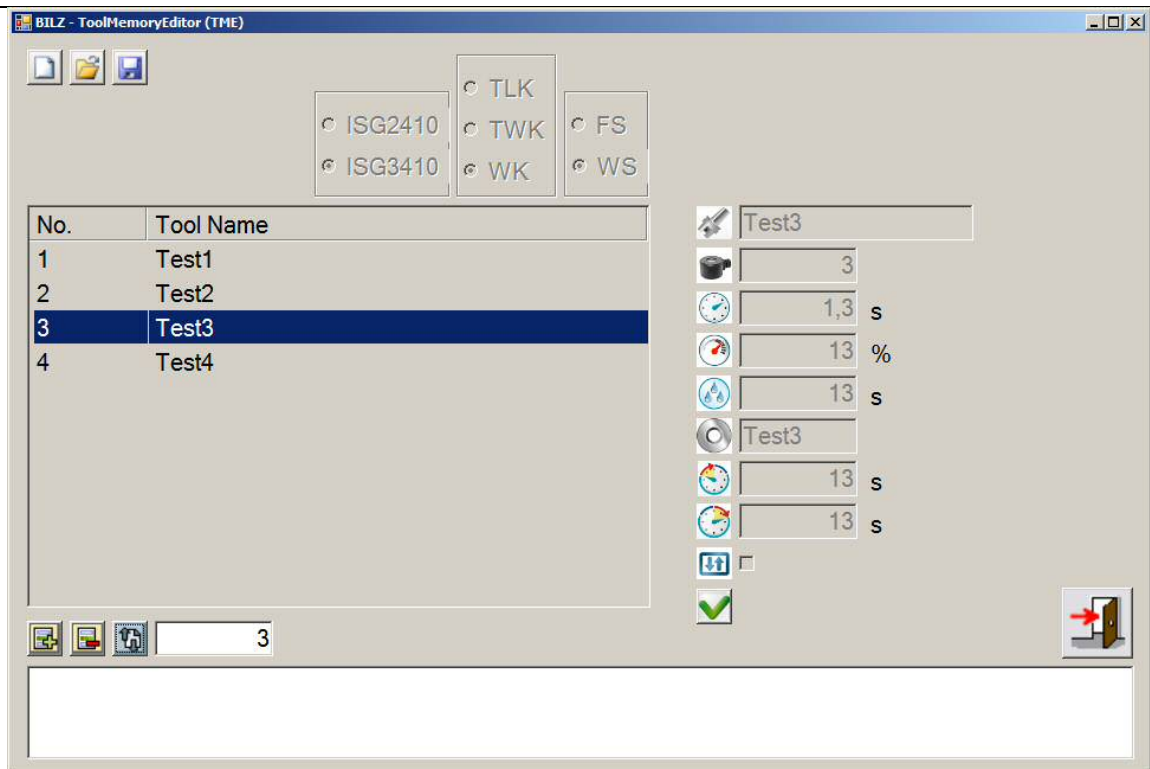



ツールリストから、順序変更したいツールデータをクリックし選択します。(上記の場合、No.3 を選択している)。

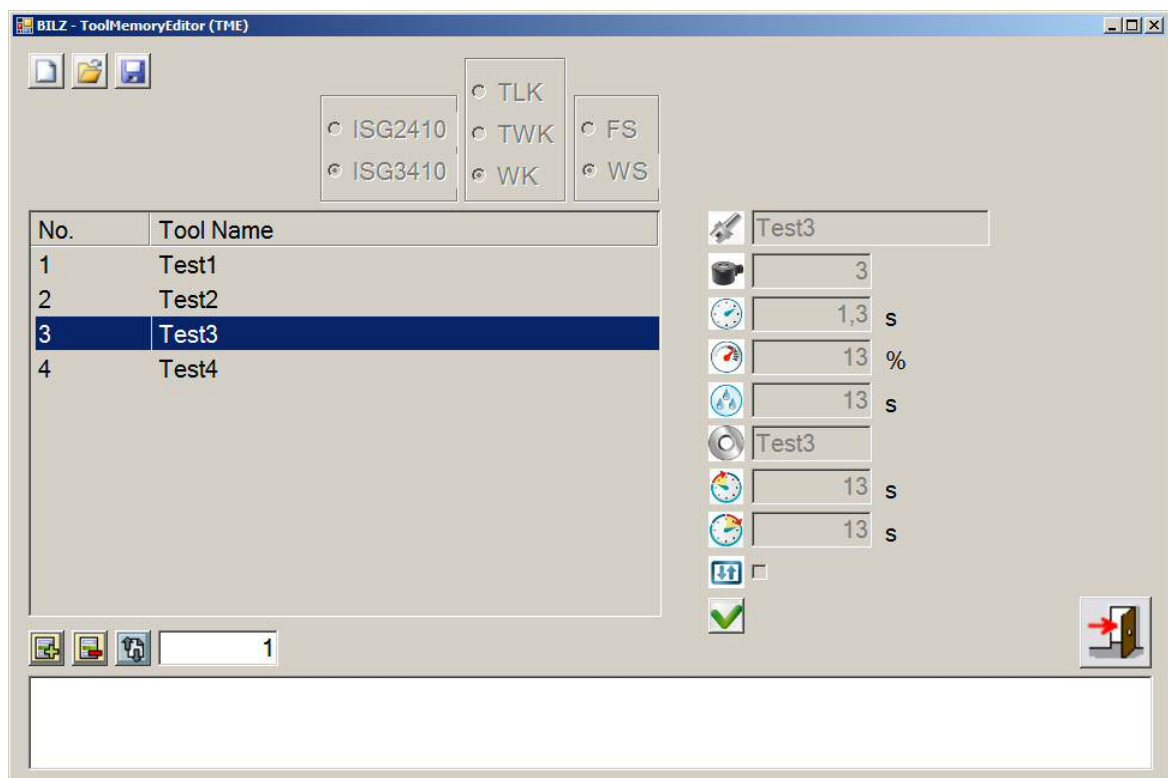
#### 3.5.2 位置の変更


 ボタンを押し、位置を変更します。

エラー! [ホーム] タブを使用して、ここに表示する文字列に ÜBILZ を適用してください。



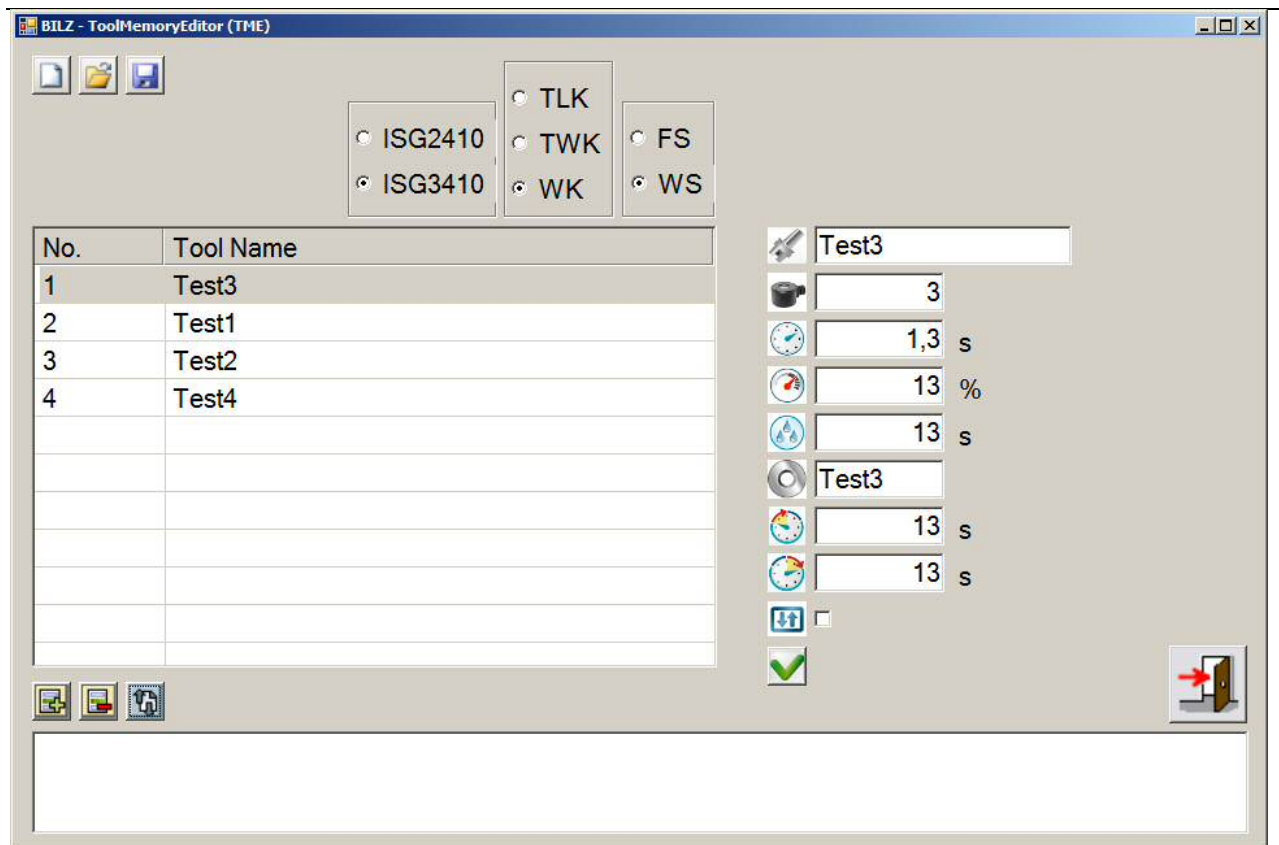
 ボタンの横に入力ボックスが表示されます。変更させたい位置の番号を入力してください。(例として、ここでは No.1 とします)




 ボタンを押してください。ツールデータの位置が変更されます。



エラー! [ホーム] タブを使用して、ここに表示する文字列に ÜBILZ  
を適用してください。




### 3.6 ツールストレージファイルの保存

 ボタンを押すと、編集したファイルが保存されます。

---

## 4 ストレージファイルを開く

 ボタンで作成済みのストレージファイルを開きます。

開いた後は、新規作成時と同じ手順でツールデータを作成できます。

## 5 焼きバメ装置へツールストレージファイルを転送する

### 5.1 基本

USB メモリを使用し、焼きバメ装置にツールストレージファイルを転送します。使用するツールストレージファイルは、ファイル名を "Tool.bin" とし、USB メモリのメインディレクトリに保存してください。また、サブディレクトリを作成し、そこにツールストレージファイルを保存しておくことが可能です。但し、使用するツールストレージファイルは、USB メモリのメインディレクトリに保存する必要があります。(複数のツールストレージファイルを同時に使用することは出来ません)

### 5.2 手順

ツールメモリエディターで Tool.bin ファイルを作成し、USB メモリのメインディレクトリに保存します。

- パソコンから USB メモリを取り外します。
- ISG2410 又は ISG3410 の電源を切ります。
- ジェネレーターボックスの USB ソケットに USB メモリを挿入します。
- 焼きバメ装置の電源を入れます。

焼きバメ装置の電源を入れると、装置が初期化されます。挿入された USB メモリのメインディレクトリに "Tool.bin" ファイルが保存されているか確認します。

"Tool.bin" ファイルが見つかった場合、装置に読み込まれ、ファイル名が "Tool.bix" に変更されます。

もし、USB メモリを焼きバメ装置に挿入したまま電源を切り、再び起動させた場合でも、ファイル名が変更されているため、ツールストレージファイルを再び読み込むことはありません。